

大阪を生物多様性の トップランナーに！



地方独立行政法人 大阪府立 環境農林水産総合研究所
 生物多様性センター



生物多様性の
 調査



生物多様性の
 活用

生物多様性の
 保全



生物多様性の
 普及

子どもから大人まで、たくさんの方が
 大阪の生物多様性を知り、関わってい
 ただけるよう普及に努めます。
 (自然環境グループ 近藤研究員)



生物多様性とは、さまざまな生物
 や生態系がもつ個性やつながり
 を表す言葉です。

生物多様性は、きれいな水・土・空気を守
 ること以外にも、農林水産業・工業などを
 通じて、さまざまな恵み (**生態系サービス**)
 をわたしたちの生活に与えてくれています。

大阪の生物多様性を 調べ、守り、活かし、広めます

災害に強い森づくり - 生物多様性保全にも貢献！ -



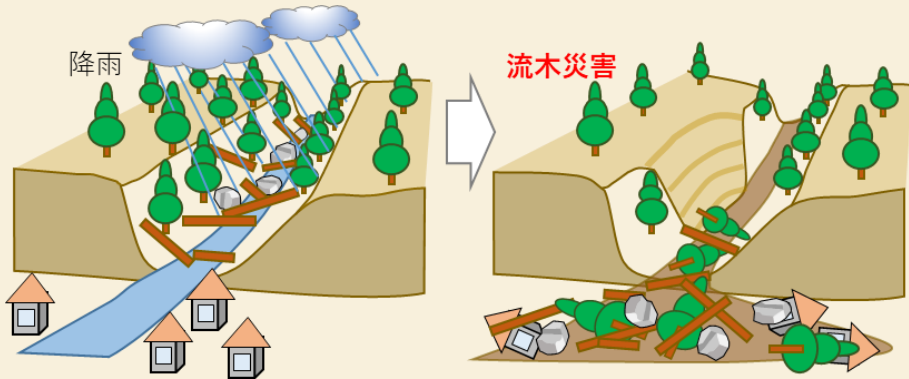
府内で発生した流木



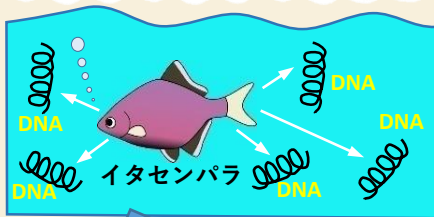
森林を適正に管理するための調査研究を通じて、山地災害からわたしたちの暮らしを守ります！
(自然環境グループ 土井主任研究員)

近年の集中豪雨の増加と、森林の手入れ不足が原因で、**府内森林では木が土石流と共に流れ出す流木災害の発生が増加し**、府民のくらしと生物多様性をおびやかしています。

そこで大阪府では、流木の発生を防ぐため、手入れの遅れている森林を対象に、流木となってしまう木を半分に減らす間伐を進めています。生物多様性センターでは、**大雨の前後で倒木等の位置を測量し、どのような木の危険性が高いのかなどを明らかにして、効果的な対策の支援を行っています。**



コップ一杯の水から魚の種類を判別 - 環境DNAで生物多様性を調べる -



環境DNAとは、環境中に存在するDNAのことです。川や池の水中には魚などのDNAを含む糞や粘液などが漂っているので、**採水して分析すると、水中のDNAからその水域に生息する魚種を特定することができます。**

採水調査は1回に多地点の調査が可能で、さらに個体数が少ない種（網などで採捕困難）の情報も得られます。

府内全域を網羅する調査も可能ですので、**生物多様性基礎データの集積に強力なツールとなっています。**



いつ、どこに、どんな種が生息するか？それを把握する事が、保全と活用の第一歩です！
(自然環境グループ 山本義彦主任研究員)



採水



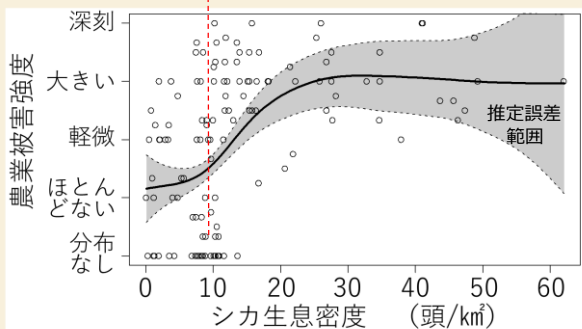
分析

野生鳥獣との共存をめざして - 科学的データに基づく個体数管理 -

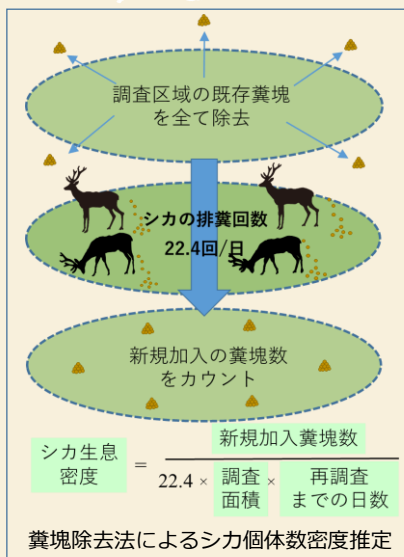
大阪のシカは、主に北摂地域に分布しています。現在、シカ高密度地域では農業被害が発生しています。

そこで、**シカの計画的な管理のため、「糞塊除去法(右図)」により、シカの生息密度と農業被害との関係を解析した結果、密度が1平方**

キロメートルあたり10頭を超えると被害が急激に増加することが分かりました。この密度を指標にして、大阪府では、シカの管理に取り組んでいます。



シカ生息密度と農業被害強度の関係



人と自然のより良い関係が構築できるよう、これからも大阪の生態系を見守っていきます
(自然環境グループ 幸田良介主任研究員)

